

丹波中学校だより



# 清流の辺

せい

りゅう

ほとり

2020. 2. 3

文責 丹波中校長 清水浩喜



## 何事にも負けない強い気持ちを大切に！

3年生にとっては、進路決定の季節となりました。義務教育9年間の一つの集大成が、ここにあるともいえません。

さて、受験（受検）ともなれば、その結果はすべての生徒にとって、うれしい結果とはなりません。第2希望もあれば第3希望に進学しなければならない生徒もいます。それを、失敗ととらえるかは、本人の気持ちしだいです。私たちの生活において、すべてが思い通りにいくことは、とても難しいことです。しかし、現代っ子は、失敗や挫折の経験が少なく、そのため、一つの失敗により人生も終わりだというような、とてつもない悲観的な考えに陥ってしまう傾向があります。自らを、追い込み傷つける行為に及んでしまうことさえあります。大変悲しいことです。「右がダメなら左がある」「AがダメならBもCもある」と考えることは、できないのでしょうか。また、「一つの失敗が次の大きな飛躍の源になる」「失敗をいかす」「種はまかなきゃ芽は出ない」等と、プラスに置き換えることはできないでしょうか。失敗の経験のない人はいません。失敗のない人生もありません。私なんて、失敗だらけの人生を送ってきました。故に、「失敗も時にはあるさ」と、何事にも負けない強い気持ちを大切にしてほしいと願うばかりです。そのためには、我々大人が寛容であることも大切です。 「一步上の自分 一步上の丹波中」のために、子どもたちの健やかな成長のために、笑顔と寛容で子どもたちを見守っていきましょう。



★県内では、現在もインフルエンザが流行しています。大切な時期です。予防の徹底に、ご協力ください。

2月 3日 (月)	受検者より学ぶ会 (進路指導)	きずなの日
4日 (火)	授業参観 臨時定例会	学年部会
7日 (金)	公立高校前期内定日	SC来校日
10日 (月)	3年生期末試験①	
11日 (火)	建国記念の日	冬季中学卓球大会 (緑ヶ丘体育館)
12日 (水)	3年生期末試験②	
17日 (月)	職員会議	
18日 (火)	きずなの日	
20日 (木)	P T A 定例会	
21日 (金)	SC来校日	
27日 (木)	1・2年期末試験①	
28日 (金)	1・2年期末試験②	



★新執行部が中心となって、3/5 (木) の3年生を送る会に向けて、準備を始めています。3年生に、どんな気持ちが届くでしょうか。

### ★保護者・地域の皆様方へ

本年度もあと2か月となりました。県下一小さい中学校ですが、県下一やる気のある生徒たちがいる丹波中学校です。そこには、保護者・地域の皆様方のあたたかい支えがあります。残り少ない本年度ではありますが、ぜひとも、全ての生徒たちを一層あたたかく見守り支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

# ★令和元年度 丹波中学校「校内研究」のまとめ

本校全職員で、校内研究に取り組んできました。前向きに切磋琢磨しあう姿がありました。先日、まとめと来年度に向けた計画についての話し合いを行いました。ここに報告します。

○研究主題は、「基礎的・基本的な知識を基盤とした主体的に学ぶ生徒の育成」～個に応じた指導方法の工夫・改善を通して～でした。「主体的に学ぶ生徒」という大きな目標を持ちながら、生徒一人ひとりの実態に即した指導の工夫はどうあるべきかについて、研究と実践を積み重ねてきました。

○研究は、高山主任が中心となって進めてきました。その特色は、全員が授業を実践し、その授業を見合い見せ合うというものでした。この部分においては、若さ溢れる教職員であるが故に、ああでもないこうでもない議論を交わしながら、互いの授業力を高め合うことに没頭する教職員でした。また、その中で個々の生徒の指導についても議論を交わし、その子に合った教え方をも追究してきました。



○志村道徳推進教師が中心となって、「全校道徳」を導入したり専門家を招いた学習会を行ったりしながら、道徳教育の推進にも重点をおいてきました。全校と教職員がともに学び合う全校道徳を導入できたことは、今後の丹波中教育にとって、大きな価値があるものでした。

～以下には、各教科ごとの研究実践について紹介します～

□**高山(数学)**：「数学という学問と授業を、指導者自身が楽しんでいる。」この点に秀でていました。専門性を高め続けるということは、中学校教師になくしてはならない資質です。数冊に及ぶ教材研究ノートは、すばらしいかぎりです。授業のねらい、基本情報、板書計画が一体となったこのノートを見れば、個にも集団にも理解を促すことが可能であると認識させられます。本年度は、統計学全国大会に山梨県代表として参加してきました。

□**久島(数学)**：基礎基本の定着に向けて、授業の開始5分間は、基本プリントに集中させました。また、ICTをうまく活用しました。生徒がノートに書いた考えをiPadに取り込んで、大型テレビで写しながら、生徒同士に意見交換をさせました。生徒が機器を使いこなすには、指導者が当たり前のようにやって見せることが大切です。数学を通して、ICT教育の推進に大きく貢献しました。

□**中村(体育)**：運動量の確保、アドバイスをし合う場面、休憩、本気の戦い等、常に授業のバランスがよかったです。更に、「うまい!」「いいぞ!」「おいしい!」「そうそう!」「ナイスプレー!」とずっとずっとプラスの声をかけ続ける指導者でした。そして、生徒の名前をたくさん呼んでいました。生徒たちのやる気に火をつける授業のプロであったことを、ここに報告します。

□**志村(英語)**：テンポがいい。声が大きく聞き取りやすい。授業の流れがわかりやすい。だから、生徒が安心できる。ここぞというポイントは、焦点化し、しつこく厳しく丁寧に指導する。課題のチェックも同様に。これらを日々積み上げる実践を通して、生徒一人ひとりに確かな力をつけたいという願いを持ち続けました。また、道徳の実践は、山梨県総合教育センター資料集にも掲載されるなど、高く評価されました。

□**奥山(国語)**：授業の目標とゴールが明確でした。そこに向けた手順についても明確な指導がありました。ここからは、驚くほど生徒中心の授業です。生徒がよく考え、自分の言葉で表現します。また、話し合いを通じて、新しい価値と出会いを仕組み、考えの再構築が図られていきます。まさに、主体的な学びだといえます。ここを促せる実践者でした。県の市川教育長が訪問した時、絶賛したのが、俳句の授業でした。鼻血が出そうでした。

□**東海林(社会)**：指導者の徹底した「共感的理解・無条件の肯定的配慮・そこに向かう純粹性」を積み上げました。このことによって、生徒の安心と豊かな表現力が、助長されました。また、社会化における基本情報や知識については、教科書や資料集以外にもわかりやすいプリントを自主作成し、生徒の理解につなげました。丹波中生徒の豊かな表現力は、こうした指導が基盤になっているといっても過言ではありません。

□**奥秋(理科)**：生徒のノートが美しい。これは、指導者のねらいが明確であること、授業の構造がしっかりしていることが要因です。つまり、生徒一人ひとりに、どんな力をつけさせたいかが、常に考えられた授業を積み上げているということです。また、ペア学習を有効に取り入れ、個に陥ることなく、交流させながらねらいにせまる授業を展開しました。若手教員の、良い手本となっています。

★子どもたちのために、一歩上の授業をめざし、全職員で取り組んできた校内研究の一端を紹介させていただきました。しめくくりに向けて、更に実践を積み上げていきます。